

南アルプス市立八田中学校 前期自己評価書

平成29年8月23日(水)作成

学校長：石丸 洋一

記述者：教頭 青柳 俊也

1. 校訓 「日日新」
2. 学校教育目標
心豊かで かしこく 心身ともに健やかな生徒の育成
3. めざす生徒像
＝「知育・徳育・体育」の調和のとれた人間形成＝

は	励んで学び、確かな知識を持つ生徒	(知育)	→	知の力
つ	強い精神と身体を持つ生徒	(体育)	→	体の力
た	助け合い、いたわり合う心を持つ生徒	(徳育)	→	心の力

『当たり前のことを 当たり前にする』

4. 学校経営方針
 - (1)職員の創意・工夫により、開かれた特色ある信頼される学校づくりに努める。
 - (2)生徒理解を深め、一人一人のよさや可能性が活かされるよう努める。
 - (3)教職員としての資質能力の向上を図り、信頼される教育活動の実践・展開に努める。
 - (4)家庭・地域との連携により、望ましい教育環境づくりに努める。
5. 生徒の努力目標
 - (1)授業にしっかり取り組もう (主体的・能動的・積極的に取り組めたか)
 - (2)さわやかに挨拶をしよう (今日の、この出会いを大切に出来たか)
 - (3)思いやりの心を行動につなげよう (相手の身になって考え行動できたか)
 - (4)主体的に活動しよう (3本の木を大切に、創意工夫を持って取り組めたか)
6. 教師の努力目標
 - (1)社会や地域の変化に対応できる力を持ち、常に自らを見つめ直していく教師
 - (2)異なるものを受け入れ児童生徒の特性を見だし伸ばしていく教師
 - (3)教職に対する責任感、探究力を持ち、生涯にわたり学び続けていく教師
 - (4)教員と生徒、また教師同士で互いに学び合い、育て合っていく教師
7. 学校経営の努力点
 - (1)知・徳・体の調和の取れた、「生きる力」をはぐくむ教育課程の編成と実施に努める。
 - (2)自ら学ぶ意欲を高め、基礎学力の定着を図る指導に努める。
 - (3)豊かな人間性をはぐくみ、心の安定を図る生徒指導に努める。
 - (4)体力・健康・安全に関する指導の充実に努める。
 - (5)家庭・地域・関係機関との連携を深め、開かれた信頼される学校づくりに努める。

I 全体評価

1. 教職員の自己評価

(1) 本年度の特徴

《A・B (肯定的評価) において》

① A・B (肯定的評価) の合計が90%未満の項目について (昨年度5項目)

- 「教育課程4: 道徳の授業はもとより学校生活全体にわたって道徳性が育つようにしている」 (76.5%)
「教育課程5: 学級会活動を通して学校生活を向上させようと話し合い等の取組をさせている」 (87.6%)
「教育課程6: 1学期の「総合的な学習」が、生徒のためになったと思う(なっていると思う)」 (88.3%)
「特別活動1: 進路学習や校外学習等に向けた取組等において、生徒に目標を決めさせたり主体的に学習できるように指導している」 (88.2%)
「特色ある学校2: 「自主学習ノート」の取組が、自主的な学びにつながり、学力が向上すると思う」 (88.9%)

② A評価が10ポイント以上向上した項目について (昨年度3項目)

- 「学校運営2: 教育内容や生活の活動のようすを、家庭にたよりや通信等で知らせている」
「学校運営5: 生徒の学習や生活のようすを保護者に知らせ、連携して取り組んでいる」
「教育課程1: 基礎基本が身につくように、授業のやり方や教材を工夫している」
「教育課程2: 学習面(生活面)で生徒の持っている資質や能力、実績や努力を適切に評価している」
「生徒指導4: 生徒のあいさつや時間指導、家庭学習や提出物等、基本的生活習慣を向上させようとしている」
「生徒指導5: 生徒が学校生活全体を通して、安心して学校生活を送れるようにしている」

「特別活動 1：進路学習や校外学習等に向けた取組等において、生徒に目標を決めさせたり主体的に学習できるように指導している」

「特別活動 2：校外学習等の学校行事が生徒の成長や学校生活に役立つなど、充実するように指導している」

③ A評価が10ポイント以上減少した項目について（昨年度7項目）

「学校運営 3：校舎内外の施設・設備や火災・防災訓練等の安全対策は充実している」

「学校運営 4：外部講師等を活用するなど、協力によって教育活動に取り組んでいる」

「特色ある学校 1：八田中の特色である合唱活動を音楽科や講師と協力して、向上させようと努力(援助)している」

《C・D（否定的評価）において》

④ C（否定的評価）が10ポイント以上増えた項目について（昨年度1項目）

「教育課程 4：道徳の授業はもとより学校生活全体にわたって道徳性が育つようにしている」

「教育課程 5：学級会活動を通して学校生活を向上させようと話し合い等の取組をさせている」

⑤ D（否定的評価）が、ついた項目について（昨年度3項目）

「教育課程 6：1学期の「総合的な学習」が、生徒のためになったと思う（なっていると思う）」

「生徒指導 2：生徒に規範意識を指導したり、他の教師と協力して生徒の問題行動に素早く対応している」

「特色ある学校 2：「自主学習ノート」の取組が、自主的な学びにつながり、学力が向上すると思う」

⑥ C・D（否定的評価）の評価がない項目（昨年度8項目）

「学校運営 1：学校教育目標の達成のために授業をはじめ教育活動を通して努力している」

「学校運営 3：校舎内外の施設・設備や火災・防災訓練等の安全対策は充実している」

「学校運営 4：外部講師等を活用するなど、協力によって教育活動に取り組んでいる」

「教育課程 1：基礎基本が身につくように、授業のやり方や教材を工夫している」

「教育課程 2：学習面（生活）で生徒の持っている資質や能力、実績や努力を適切に評価している」

「教育課程 3：本年度の校内研究にかかわる「授業構造」を意識した授業づくりに取り組んでいる」

「生徒指導 1：生徒に気軽に声をかけたり、それぞれに合ったアドバイスをしている」

「生徒指導 3：職員同士、職員と生徒、職員と保護者、それぞれが相互に生徒を良くしようとしている」

「生徒指導 4：生徒のあいさつや時間指導、家庭学習や提出物等、基本的生活習慣を向上させようとしている」

「生徒指導 5：生徒が学校生活全体を通して、安心した学校生活を送れるようにしている」

「生徒指導 6：いじめのない学校を目指して、積極的に取り組んでいる」

「特別活動 3：生徒が生徒会活動や委員会活動等に積極的に取り組めるように指導している」

「特別活動 4：生徒が部活動で目的をもって主体的に取り組む、心身ともに成長するように指導している」

「特色ある学校 1：八田中の特色である合唱活動を音楽科や講師と協力して、向上させようと努力(援助)している」

「特色ある学校 3：小中一貫(分離型)教育を意識して教育活動に取り組んでいる」

「開かれた学校 1：学校は、学期1回の一斉授業参観、学期1回の学校開放日、休日行事開催等、保護者に対し努力している」

以上16項目。

(2) 平成28年度より改善・向上した項目

A評価が10ポイント以上向上した項目は、昨年度の3項目に対して本年度は8項目と著しく向上している。A評価が10ポイント以上減少した項目についても、昨年度の7項目に対して本年度は3項目と改善傾向にあると言える。また、C・Dの評価がつかなかった項目においても、昨年度の8項目に対して本年度は16項目と大きく改善されている。

(3) 2学期の取組課題（自由記述より）

本校は生徒指導面において、教職員の意識が高まっている。それは、上記の⑥C・Dの評価がない項目について、「生徒指導」で6項目中5項目が相当していることからうかがえる。「より高い目標の達成を目指していきたい」という記述からも、基本的な生徒指導ができていいる上で、さらなる一歩を目指していこうとする向上心を感じる。しかしながら、一人が「高い目標」を意識しても全体を向上させることはできない。やはり、そうした目標を共有することで「チーム八田」としての前進があると思われる。

また、「学年の先生方が連携して対応してくださりありがたい」「先生方が一人ひとりの生徒のようすを丁寧に見ている」という記述があった。ほとんどの先生が、生徒のようすを見過ごすことなく関わっていこうとしている。そしてその姿を誰かが見ているし、心の支えとしている。こうした心のつながりをもって「チーム八田」がこれから進んでいくことを望みたい。

今年度、「小中一貫(分離型)教育を意識して教育活動に取り組んでいる」という評価項目を新たに設けた。A評価はまだ50%に至っていない。今後、小中連携の取組が加速されていく。自分として学校としてどうしていくべきか、一歩前を意識しつつ考え行動していかななくてはならない。

2. 学校生活に関する生徒アンケート

(1) 本年度の特徴

A・B（肯定的評価）の合計が80%以上の項目（全校集計から）について

○全26項目（除携帯電話項目）において、肯定的評価が80%以上となっている（昨年度25項目）。また、90%以上が15項目（昨年度14項目）あり、生徒が学校生活全般に渡り肯定評価している傾向が如実である。

(2) 3年生の評価について 【昨年度前期2年→本年度前期】

①2年次よりA・B（肯定的評価）が向上した項目について

26項目中21項目（昨年度の3年生16項目）である。うち10ポイント以上向上した項目は、5項目（昨年度の3年生2項目）あった。

本年度、90%以上の項目14項目（昨年度の3年生20項目）

②否定的評価（C・D評価）が高い項目（20%以上）について

3項目だった（昨年度の3年生2項目）。

「特色ある学校2：あなたは、「自主学習ノート」の取り組みが、自分の学力向上になると感じますか」（21.4%）

「学校生活全般1：学校生活は全般的に楽しいと感じますか」（21.3%）

「学校生活全般2：授業は全般的にわかりやすいと感じますか」（27.9%）

*他の23項目は、A・B評価の合計がすべて80%以上であった。

(3) 2年生の評価について 【昨年度前期1年→本年度前期】

①1年次よりA・B（肯定的評価）が向上した項目について

26項目中5項目（昨年度の2年生10項目）である。うち10ポイント以上向上した項目はなかった（昨年度の2年生3項目）。

本年度、90%以上の項目19項目（昨年度の2年生6項目）

②否定的評価（C・D評価）が高い項目（20%以上）について

本年度はなかった。（昨年度の2年生9項目）

(4) 1年生の評価について

①A・B（肯定的評価）が90%以上の項目について

26項目中12項目（昨年度の1年生24項目）である。

②否定的評価（C・D評価）が高い項目（20%以上）について

2項目だった。（昨年度の1年生1項目）

「学校運営1：あなたは、教室の前に掲示してある学校教育目標の達成のために何か努力をしていますか」（20.4%）

「学校生活全般1：学校生活は全般的に楽しいと感じますか」（20.4%）

*他の24項目は、A・B評価の合計がすべて80%以上であった。

(5) 2学期の取組課題（90%未満の11項目を課題とする）

① 学校運営に関する項目

「学校運営1：あなたは、教室の前に掲示してある学校教育目標の達成のために何か具体的な努力をしていますか」（87.3%）について。生徒は人の気持ちを考えることや、学力向上を目指すこと、体力の向上に努めることなど当たり前のように日々行っているが、改めて、「学校教育目標」として取り組んでいるという意識は、あまりないようである。「知・徳・体」という意識を持たせていくことで、向上していくと思われる。

② 教育課程に関する項目

・「教育課程2：あなたは先生が、学習面（生活面）であなたの持っている力を伸ばしたり、努力の成果を評価していると感じますか」（86.3%）について。一人ひとりの生徒としっかり関わることで、生徒の良い点や改善点を見出し、成長させていこうとする行動が大切である。

・「教育課程4：あなたは先生が、道徳の授業はもとより学校生活全体にわたって道徳性が育つようにしていると感じますか」（87.8%）について。2年後に道徳は特別の教科として教科化される。それを見越したうえで、道徳心や生きて行動できる道徳を、生徒に身に付けさせていかななくてはならない。もっとも大切なことは、教師が率先垂範し、思いやりの心を育む姿勢を示すことである。

・「教育課程5：あなたの学級は、学校生活を向上させようと話し合い等の取組をしていると感じますか」（88.3%）について。本校は他校と比べて行事が多い。行事はクラスづくりに欠かせないが、行事ご

とに振り返り、今後の取組をどうしていくかを見直していく必要がある。ただ追われるばかりの取組でなく、改善しつつ前へと進んでいく見通しをもつことが大切である。

③ 生徒指導に関する項目

- ・「生徒指導1：先生は、気軽に声をかけてくれたり、アドバイスをしてくれますか」
今年度 全体88.7%（1年93.8% 2年88.8% 3年83.6%）
昨年度 全体82.1%（1年91.3% 2年57.4% 3年93.0%）
- ・「生徒指導3：先生どうし、先生と生徒、先生と保護者は、相互に協力して、生徒を良くしようとしていると思いますか」
今年度 全体86.8%（1年84.4% 2年91.1% 3年83.6%）
昨年度 全体85.8%（1年95.0% 2年72.1% 3年87.3%）

今年度の3年生が比較的低い数値を示しているが、1年前の2年生の時の数値から著しく向上していることがうかがえる。先生と生徒との関係性もあるが、やはり最上級生としての自覚が大きく高まっていると思われる。

今年度の2年生の数値が1年前の1年生の時の数値と比べ、若干減少している。中学校に入って間もない希望にあふれた1年生の時と、少し慣れが出る2年生とでは、モチベーションに差があるのではないかと思われる。

1年生がもつ特性、2年生がもつ特性、3年生がもつ特性とそれぞれの傾向はある。その特性を踏まえつつ、時に厳しく時に優しく生徒と関わっていく必要がある。生徒は厳しい先生だからといって否定するわけではなく、正しいことを見抜く目をもっている。教師は生徒にどのような力をつけるかを明確にし、すべきことを常に持ち、自信をもって進めていくことが大切である。

④ 特別活動に関する項目

- ・「特別活動1：あなたは、進路学習や校外学習等に向けた取組など、目標等を決め、主体的に学習していますか（学習してきましたか）」（87.8%）について。1学期には、1年生はミニ学園祭、2年生は宿泊学習、3年生は修学旅行と、大きな行事が行われた。少々数値が低かったことを謙虚に受け止め、今後行われるさまざまな行事において、生徒につけさせたい力を明確にし、生徒がより意欲的に活動できる場面を多く設定していきたい。
- ・「特別活動3：あなたは、生徒会活動や委員会活動等に積極的に取り組んでいますか」（89.3%）について。学年が上がるにつれて数値は上昇している。1年の始めは何をするのかわからず、ほぼ先輩についていだけである。今後、徐々に主体的な活動へと移行していくと思われる。また、一人ひとりに役割を考えさせることで、積極的な参加へと導いていきたい。

⑤ 特色ある学校に関する項目

- ・「特色ある学校2：あなたは、「自主学習ノート」の取組が、自分の学力向上になると感じますか」（85.4%）について。一昨年度の校内研究に「自主学習ノートの取組」が含まれており、全職員で意識されていた。現在、校内研究には含まれていないが、本年度の校内研究では、学力向上を目指した「授業の構造化」を進めている。「授業の構造化」を確立していくことにより、自主的な学習へつなげることを期待したい。

⑥ 学校生活全般に関する項目

- ・「学校生活全般1：学校生活は全般的に楽しいと感じますか」
今年度 全体81.0%（1年79.7% 2年83.8% 3年78.7%）
昨年度 全体84.9%（1年90.0% 2年77.0% 3年85.9%）
- ・「学校生活全般2：授業は全般的にわかりやすいと感じますか」
今年度 全体81.9%（1年88.9% 2年83.8% 3年72.1%）
昨年度 全体79.2%（1年91.3% 2年67.2% 3年76.1%）

全体では8割を超えているものの、少々さびしい結果である。学校は、楽しいところでなくてはならない。ただ面白おかしいところではなく、秩序があり安全に安心して生活し学習できる場である。学校生活が楽しくないとする生徒、授業がわかりやすすくないと感じている生徒が2割近くいる。そうした一人ひとりの生徒の「居場所」をつくること、そして、わかりやすく主体的に参加できる授業を目指して研修を重ねることが、私たち教職員にとって大切である。

Ⅱまとめ(成果と課題)

この自己評価では、評価基準として教職員自己評価のA・B評価が90%以上、生徒アンケートのA・B評価が80%以上に設定した。この基準からは「肯定感と満足感」が伝わり、大きな教育成果のひとつとなると捉える。

- 学校運営については、教師・生徒とも高い数値が表れている。「学校運営1」では、生徒87.3%と教師100%と多少のギャップはあるが、教師が学校教育目標を念頭において教育活動を行うことで、解消されるところである。他の学校運営に関する項目では、教師・生徒とも90%を越えている。今後も生徒が主体的に臨めるような取組を行うことが大切である。
- 教育課程については、「教育課程2」において教師100%に対し生徒86.3%とギャップがあった。生徒も高い数値を示しているが、この差を真摯に受け止め、生徒の視点に立った教科、道徳、特活面の向上を図るべく、さらなる努力を続けることが大切である。また、「教育課程4」の道徳について、教師・生徒とも90%を切り、若干低めの数値を示している。道徳の授業はもちろん、生徒とのコミュニケーションづくりに励み、日常生活での道徳心の向上を図ることが大切と思われる。
- 生徒指導については、「生徒指導1~6」の教師の肯定的評価は94.7%1つ、100%5つ、生徒は80%代2つ、90%代4つと高い数値を示している。生徒指導に関するこの分野は、教師と生徒との信頼関係が、数値として最も顕著にあらわれる分野でもある。学校は、信頼関係で成り立っている。肯定評価が高いとはいえ、ほんの少しのことで一気に学校が崩れてしまうこともある。そして、一度崩れた信頼関係を取り戻すには、計り知れない労力と年月を要する。教師は常に生徒の目線に立ち信頼関係を築きつつ、常に危機管理意識をもって教育活動を推し進めていくことが大切である。
「生徒指導6」のいじめについて、生徒の肯定的評価は96.1%と高い数値を示したが、あくまでもいじめ0を目指して日々強固に取り組んでいくことが必要である。いじめは犯罪であるという認識のもと100%にすることが必要である。
- 「特別活動1」について、教師・生徒とも全体の数値に比べるとやや低い数値が出ている。進路学習や校外学習などの取組において、教師自体が一人ひとりの生徒に対して目標をもたせる努力があってこそ、生徒が主体的に学習を進めていく。教師は常に研究し試行しつつ、絶えず実践を積み重ねていかななくてはならない。
- 特色ある学校について、「合唱」については教師・生徒共に高い数値を示している。「自主学习ノート」については、教師・生徒ともに低めの数値となっている。校内研究の対象から外れたものの、今後どのように進めていくかを検討していく必要がある。
- 開かれた学校について、「開かれた学校1」の教師100%、生徒94.6%とともに高い数値を示している。本校では年4回の学校開放を実施している。その中でも来校者数をもっとも多いのは、学園祭や合唱コンクールなどの学校行事である。子どもの成長した姿や活躍する姿を見る楽しみはもちろん、保護者、地域との連携の機会でもある。今後もより多くの来校者が訪れるよう、生徒・保護者そして地域に啓発していきたい。
- 学校生活全般について、「学校生活全般1」の学校生活が楽しいは肯定的評価が昨年度84.9%→81.0%と低下している。「学校生活全般2」の授業がわかりやすいは肯定的評価が昨年度79.2%→81.9%とやや向上しているが、高い数値とは言えない。生徒達にとって「学校生活が楽しい」と「授業がわかる」は、学校生活において私たち教師が最も大切にしていかななくてはならない部分である。生徒の居場所づくりはもちろん、個々の生徒が活躍できる場を確保しながら充実した生活を送れるよう学校全体として取り組むことが大切である。また、学習に向かう心構えとしての生徒指導はもちろん、教師側も充実した授業展開が図られるよう校内研究に積極的に参加し、授業を見合うなどして個々の授業力の向上に努める必要がある。
- 「学校生活全般3」の携帯電話の保有率は、全学年で70%を超えている。「学校生活全般4」の携帯電話でのルールについては、1年76.1%、2年56.9%、3年40.4%と学年を追うごとにルールが緩くなっている。携帯電話をめぐるトラブルは既に報告されている。6月30日に本校では講師を招聘して、携帯・スマホに関する防犯集会を開催した。今後、保護者への啓発を行うとともに、生徒自身が危険を把握したうえでどうすべきかを主体的に考えるよう、生徒指導主事を中心に指導を図っていく必要がある。

生徒の肯定的評価は、すべて80%を超えている。この高評価は、生徒との信頼関係を築いてきた先生方の日々の努力のあらわれであると確信している。

この高評価に甘えることなく、高い評価はさらに伸ばせるように、また低い評価については改善が図れるように全職員で共通理解を持ちながら取り組むことが必要である。